令和２年度指定管理鳥獣捕獲等事業の捕獲結果（ニホンジカ）

千葉県ではニホンジカ（以下、シカ）の分布が拡大傾向にあり、それに伴い捕獲数も年々増加しているものの、依然として農作物被害は深刻な状況にある。このため、第二種特定鳥獣管理計画を策定し、平成 27 年度から指定管理鳥獣捕獲等事業（以下、指定管理事業）を実施している。

令和 2 年度においてもシカの指定管理事業実施計画を策定し、生息域の縮小または拡大防止を目的に、生息域の外縁部である市原・大多喜地域において捕獲を実施した。

１　捕獲の実施状況

令和２年度は実施区域を市原市の保護管理ユニット（以下、ユニット）I1、I2、I3、I4、I5 及び大多喜町のユニットO9、O12 において、集中的に捕獲を実施した（**図１**）。

- 委託先　：（一社）千葉県猟友会
- 委託期間：令和 2 年 6 月 23 日～令和 3 年 2 月 5 日
- 実施区域：市原市（I1、I2、I3、I4、I5）、大多喜町（O9、O12）
- わな設置期間：令和 2 年 8 月 18 日～12 月 24 日（市原市）
  令和 2 年 8 月 21 日～12 月 24 日（大多喜町）
- 目標捕獲数及び捕獲方法：120 頭（くくりわな）

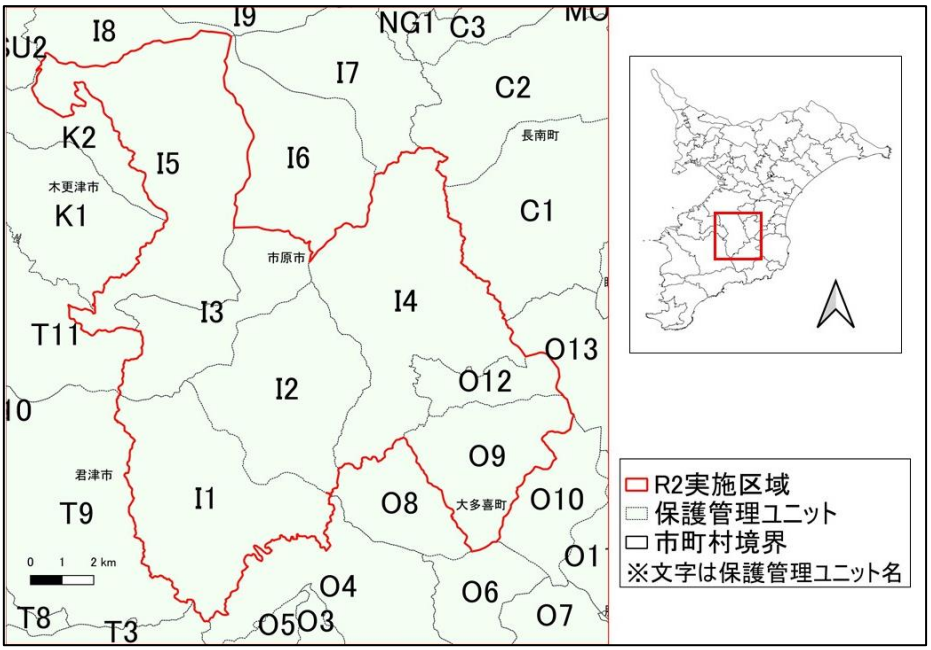

図１　シカの指定管理事業実施区域

２　捕獲の実施結果

２－１　平成２７－令和２年度事業における捕獲結果

表２に平成 27－令和 2 年度事業における齢区分・雌雄別の捕獲数を、**表３**に平成 27－令和 2 年度事業における捕獲作業及び捕獲状況を、**表４**に月ごとの捕獲作業及び捕獲状況を示した。

- 令和 2 年度は目標 120 頭に対し、140 頭を捕獲した。半数が成獣オスの捕獲だった。
- 令和 2 年度は、平成 31 年度と比較するとわな日が約 1.6 倍増加し、捕獲数も約 1.8 倍増加した。CPUE は本事業開始以降、最高値の 5.59 となった。
- 令和 2 年度のメス割合は 35.7%と、平成 31 年度と比較すると大きく増加した。一方で、幼獣割合は 14.3%に減少した。
- 月ごとの比較では、CPUE は 10 月が最も高く 6.33 だった。成獣メスの割合は 12 月が最も大きく 55%だった。幼獣の捕獲は 8 月、12 月に 0 頭だった。

表２　平成２７-令和２年度の捕獲数の内訳

	H27	H28	H29	H30	H31	R2
成獣メス	1	16	9	17	15	50
	(25.0)	(34.0)	(52.9)	(27.9)	(19.0)	(35.7)
成獣オス	3	22	8	36	47	70
	(75.0)	(46.8)	(47.1)	(59.0)	(59.5)	(50.0)
幼獣メス	0	9	0	6	14	17
	(0.0)	(19.1)	(0.0)	(9.8)	(17.7)	(12.1)
幼獣オス	0	0	0	2	3	3
	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(3.3)	(3.8)	(2.1)
合計	4	47	17	61	79	140

※後足長が 30㎝ 以上の個体を成獣とした

※括弧内は各年度の全捕獲数に占める割合

表３　平成２７−令和２年度のわな捕獲の作業及び捕獲状況

	H27	H28	H29	H30	H31	R2
わな数	65	120	120	160	160	200
わな日	1,936	10,878	10,278	16,646	16,078	25,046
空はじき	0	102	38	180	148	134
空はじき率	0.00	9.38	3.70	10.81	9.21	5.35
目標捕獲数	−	20	24	55	60	120
捕獲数	4	47	17	61	79	140
成獣メス割合（%）	25.0	34.0	52.9	27.9	19.0	35.7
幼獣割合（%）	0.0	19.1	0.0	13.1	21.5	14.3
CPUE	2.07	4.32	1.65	3.66	4.91	5.59

※わな日はわな数×わな稼働日数により算出した

※CPUE は（捕獲数/わな日）×1000、空はじき率は（空はじき/わな日）×1000

※平成 27 年度は目標捕獲数を設定しなかった

※平成 27-28 年度は主に冬期に捕獲を実施したが、平成 29−令和２年度は夏期から秋期にかけて捕獲を行った

表４　令和２年度の月ごとのわな捕獲の作業及び捕獲状況

	8月	9月	10月	11月	12月	合計
わな日	2406	6,000	6,140	5,960	4,540	25,046
捕獲数	5	38	42	35	20	140
成獣メス割合（%）	40.0	39.5	26.2	31.4	55.0	35.7
幼獣割合（%）	0.0	13.2	21.4	17.1	0.0	14.3
CPUE	2.08	6.33	6.84	5.87	4.41	5.59

２－２　令和２年度事業のユニット別捕獲結果

表５、図２、３にユニットごとの捕獲結果をまとめた。

- 市原市では I1 において、大多喜町では O9 において比較的高い捕獲圧をかけた。
- 捕獲数が最も多かったユニットは I1 で 39 頭であり、次いで O9 の 35 頭だった。
- わな日が多いユニットにおいて、捕獲数も多い傾向であった。
- I4 において成獣メス割合が最も高く、50%だった。
- 大多喜町では幼獣の捕獲はなかった。

表５　令和２年度のユニットごとのわな捕獲の作業及び捕獲状況

ユニット	市町村	わな日	捕獲数	成獣メス割合	幼獣割合
I1	市原市	4896	39	23.1	25.6
I2	市原市	2397	14	35.7	14.3
I3	市原市	3889	24	37.5	16.7
I4	市原市	1709	12	50.0	16.7
I5	市原市	2195	13	38.5	15.4
O9	大多喜町	9165	35	42.9	0.0
O12	大多喜町	795	3	33.3	0.0

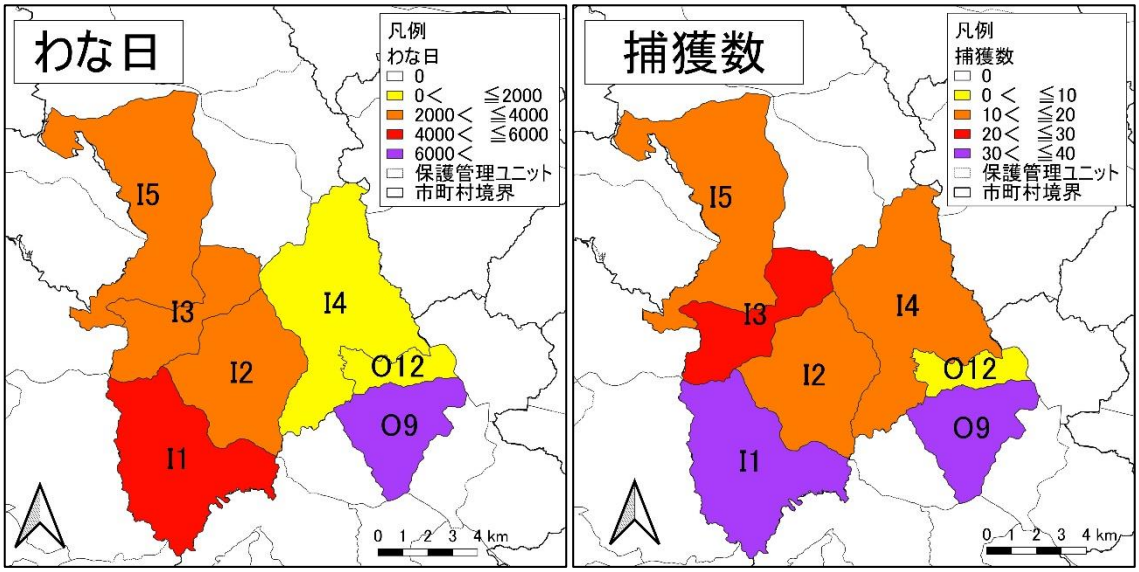

図２　ユニットごとのわな日と捕獲数

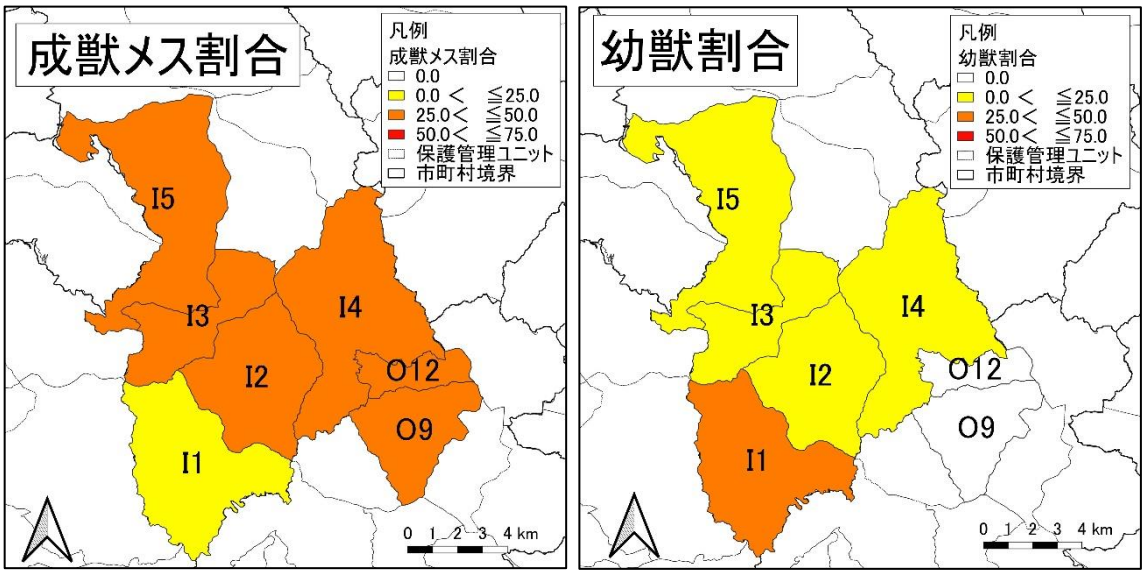

図３　ユニットごとの成獣メス割合と幼獣割合